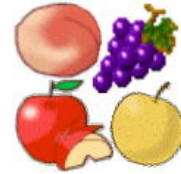


平成26年度 果樹情報 第2号

(平成26年4月11日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (4月上旬：果樹研究所)

4月上旬の平均気温は1半旬が9.4℃で平年より1.0℃高く、2半旬が8.2℃で平年より1.9℃低く、この期間中の降水量は48.0mmで平年の219%でした。

2 土壌の水分状況 (4月11日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが1.9、40cmが1.6、60cmが1.8と適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

(1) もも「あかつき」は、開花直前の状況です。

(2) なし「幸水」の展葉は、4月11日で平年より6日、「豊水」は4月7日で平年より5日早い状況でした。

(3) りんご「つがる」の展葉は、4月5日で平年より6日、「ふじ」は4月3日で平年より7日早い状況でした。

(4) おうとう「佐藤錦」の発芽は、3月30日で平年より1日早い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月26日	3月26日	3月20日	—	—	—
		3月25日	3月27日	3月19日	—	—	—
なし	幸水	4月2日	4月3日	3月29日	4月11日	4月17日	4月10日
		3月31日	3月31日	3月28日	4月7日	4月12日	4月8日
りんご	つがる	3月27日	3月27日	3月20日	4月5日	4月11日	4月6日
		3月28日	3月29日	3月22日	4月3日	4月10日	4月2日
おうとう	佐藤錦	3月30日	3月31日	3月23日	—	—	—

注) 平年値は、1981～2010年の平均値 (オウトウは1994～2010年)。

4 開花予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並みに経過した場合の開花始めは、もも「あかつき」が4月14日、なし「幸水」が4月22日、りんご「ふじ」が4月26日といずれも1日早いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表3 開花予測日 (4月11日現在)

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
もも	あかつき	4月13日	4月15日	4月14日	4月13日	4月14日
なし	幸水	4月19日	4月23日	4月22日	4月20日	4月25日
りんご	ふじ	4月26日	4月27日	4月26日	4月23日	4月30日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。開花始めの平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成26年4月10日発表)より

今後の気温の経過は、1週目（4月12日～4月18日）は平年並の確率が50%、2週目（4月19日～4月25日）、3～4週目（4月26日～5月9日）は平年並みの確率が各々40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

生育が進むにつれて耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策として、防霜資材の手配と準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、4月中旬以降をめぐり下草を5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれがありますので注意が必要です）。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実確保を促しましょう。

(2) 結実確保対策

開花の時期は、直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に十分注意し、訪花昆虫の導入、開やくの準備、人工受粉時の労力確保などを計画的に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には、事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈を行い、30%以下の場合には希釈しないで使用しましょう。

6 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご腐らん病

本病の発生が認められる園では、展葉初期の防除を徹底しましょう。また、伝染源となる枝腐らん、胴腐らんは確実に削り取るかせん除し塗布剤で保護しましょう。なお、伐採した被害枝幹及び削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分しましょう。

イ モモせん孔細菌病

前年は、生育期間を通じて断続的に発病し、秋期の新梢葉での発病も多かったことから、開花直前の薬剤散布を徹底し、感染防止を図りましょう。なお、この時期に使用する薬剤は、開花後に使用すると薬害を生じる場合があるため、十分注意しましょう。また、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れは見つけ次第徹底してせん除しましょう。

ウ なし黒星病

本病の最も重要な防除時期は開花期前後であるため、開花直前と落花直後に必ず本病に有効なE B I剤のいずれかを散布しましょう。また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源の密度低下に努めましょう。

(2) 虫害

ア 主要害虫の防除時期

所内における主要害虫の誘殺時期は平年に比べやや早い状況です。そのため、ミツバチやマメコバチなどを導入する場合には、訪花昆虫に影響の強い有機リン系殺虫剤等の散布時期に十分注意しましょう。

イ モモハモグリガ

今後の気温が平年並みに経過した場合、誘殺盛期は4月22日（平年に比べ3日早い）と予測されます。本種による突発的な被害を回避するため、落花10日後の防除を確実に行いましょう。薬剤は、アブラムシ類の防除も兼ねてネオニコチノイド剤を使用しましょう。

ウ リンゴコカクモンハマキ（りんご、なし）

昨年、本種の発生が多かった園や、現在、花や新葉に食害が見られる園では、落花直後にI G R剤またはB T剤を散布しましょう。

表1 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定
(演算方法は三角法 平成26年4月10日現在)

	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代	第1世代	越冬世代	第1世代
今後の気温予測	誘殺盛期	防除適期	誘殺盛期	防除適期
2℃高い	4月19日	4月26日	5月13日	5月26日
平年並み	4月22日	4月29日	5月21日	6月4日
2℃低い	4月25日	5月3日	5月30日	6月15日

起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧いただけます。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>